

健康通信

問合先 市民病院 (☎ 76 - 4131)

腹部大動脈瘤について

心臓血管外科 部長医師 杉山 佳代

今回は腹部大動脈瘤についてお話しします。

時代小説が好きな方なら、「坂の上の雲」や「竜馬がゆく」などの傑作を残した司馬遼太郎という小説家をご存知だと思います。彼は72歳のときに腹部大動脈瘤破裂という病気で亡くなりました。もし、この病気にかからず長生きできていたら、さらにたくさんの傑作を残していたかもしれません。

◆腹部大動脈瘤の原因や特徴

大動脈は心臓から出て体の隅々まで血液を運ぶ動脈という血管の特に太い部分を指します。太い部分だと3cmくらいあります。大動脈が膨らんでしまうことを大動脈瘤といい、瘤の直径が5cmを超えてくると大動脈の壁が引き伸ばされて薄くなり、破れやすくなります。もし大動脈瘤が破れてしまうと、血液が動脈の外にあふれてしまい、臓器に血液を分配することができなくなります。大動脈瘤破裂は、治療をしないまましていると、やがて出血多量で死んでしまう怖い病気です。

大動脈瘤の原因は大きく動脈硬化と遺伝的要因が挙げられます。動脈硬化は年齢が上がるにつれて進行し、また、高血圧や脂質異常などの生活習慣病、喫煙などのリスクファクターによって起こりやすいとされています。特に腹部大動脈瘤は動脈硬化による要因が大きいとされていますが、ある程度の年齢になると誰にでも起こりうる疾患です。

また、この病気の怖いところは「サイレントキラー」とも呼ばれ、破裂するまで自覚症状がほとんどないことです。レントゲンや採血検査では見つからないため、皆さんも人間ドックや健康診断でなるべく腹部エコーやCTの検査をオプション

でつけるようにしましょう。体が比較的痩せている方はおへそのあたりでどきどき拍動する瘤を触れることがあります。そうした時はすぐに医療機関を受診しましょう。

◆腹部大動脈瘤の治療

この病気は破裂前に適切な治療をすればほとんどの人が助かります。20年近く前は開腹による人工血管置換術のみが治療方法でしたが、その後カテーテルによるステントグラフト治療が可能となりました。

ステントグラフト治療は左右の足の付け根に少し太め（二色ボールペンくらい）の管を入れることで治療できるため、開腹ができないような非常にリスクが高い人や、過去に開腹手術を受けたことがある人にも治療ができます。手術時間は人工血管置換術だと3～5時間、ステントグラフトだと2～3時間くらいです。破裂してしまってもこうした治療は可能ですが、破裂時の緊急手術は致死率が非常に高いため、破裂する前に手術を受けることが理想です。

当院ではこうした治療をはじめ、腹部大動脈瘤の早期発見のために心臓エコー検査の際に腹部大動脈も合わせて評価する取組を始めています。少しでも不安のある方はいつでもご相談ください。また、近年の医療技術の発達により負担が非常に軽くなっているので、以前、手術が難しいと言われた方もまずはご来院ください。



▲病院ホームページ